

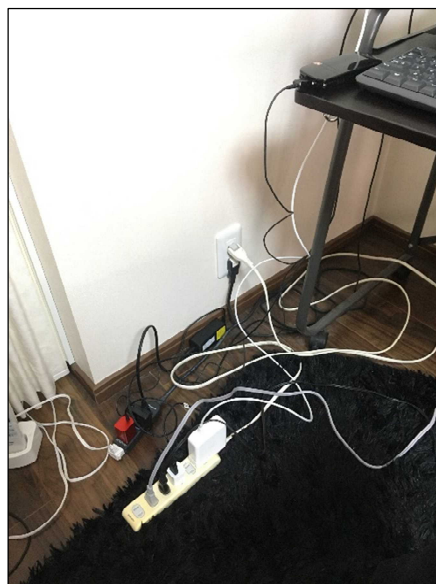


テレワークで大混雑 ～プラグ・コードの取り扱いに注意～

テーブルタップ・延長コードなどによる事故（以下「配線器具^{※1}の事故」という）や電気製品の電源プラグ・電源コードによる事故（以下「プラグ・コードの事故」という）が毎年発生しています。2015年度から2019年度の5年間にNITE（ナイト）に通知のあった製品事故情報^{※2}では、配線器具の事故は282件（内：火災事故164件）^{※3}、プラグ・コードの事故は276件（内：火災事故155件）^{※3}ありました。配線器具では、ほこり、水分の付着によるトラッキング現象^{※4}の事故が多く発生し、プラグ・コードでは、電源コードやコードプロテクターに無理な力が加わり、断線してショートする事故が多く発生しています。

今年は、新型コロナウイルスの影響により在宅勤務を行うためなど、自宅に新たに電源が必要となったことで、特にテーブルタップなどの需要が増えています。電源周りが煩雑になってしまっている場合も考えられ、電源コードの損傷事故などは増加するおそれがあります。年末の大掃除の際に、配線器具や配線状況を点検し、破損などがあれば取り換えなどして、事故を未然に防ぎましょう。

その他、リコール対象製品による事故も発生しているため、お持ちの製品がリコール対象かどうかを確認してください。



混雑した配線器具

■火災事故事例

- ・ ペットの尿がテーブルタップ内部に浸入し、トラッキング現象が生じて製品及びその周辺を焼損した。
- ・ コンセントへの抜き差しや、使用中の引っ張りなどで掃除機の電源プラグを傷つけたため、接触不良となり、動作時の電流により異常発熱して出火に至った。
- ・ コードリールに接続可能な最大消費電力を超える電気製品（ふとん乾燥機複数台）を接続していたため、コードリールの電源コードが異常発熱し、建物を半焼する事故が発生した。

■火災事故を防ぐポイント

- 電源プラグはしっかり差し込む。また、電源プラグや差込口などにほこりがたまっていないか確認し、掃除する。
- テーブルタップやコンセントと電源プラグの接続部分に水分が付着しないよう注意する。アルコール消毒液も浸入すればショートやトラッキング現象を引き起こすおそれがあるので、接続部分にかからないように注意する。
- 電源コードを引っ張る、机や椅子の脚で踏むなど、無理な力を加えない。
- 接続可能な最大消費電力を確認し、これを超えるような使用をしない。
- 異臭や変色など、事故の予兆を見逃さない。

(※1) テーブルタップ、延長コード及びマルチタップなど。詳細は次ページ参照。

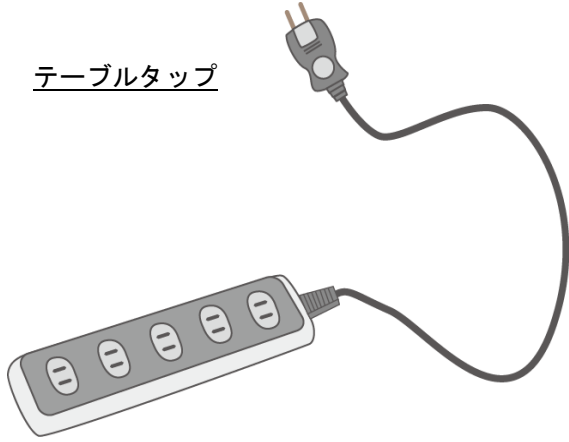
(※2) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

(※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

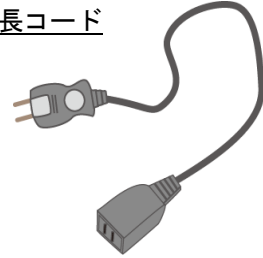
(※4) 付着したほこりや水分によりトラック（電気の通り道）が生成され、異常発熱する現象（詳細はP3参照）。

対象の配線器具

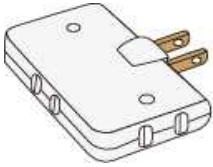
テーブルタップ



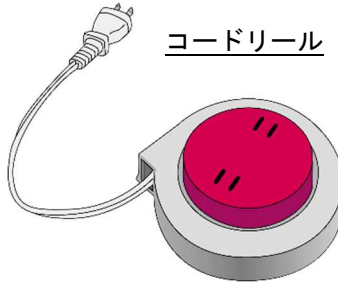
延長コード



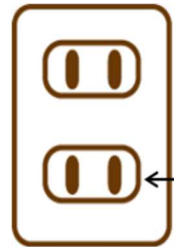
マルチタップ



コードリール



コンセント



差込口

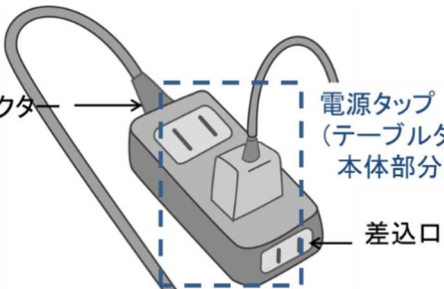
- テーブルタップ : 電源プラグから差込口までが延長されており、複数の差込口を有するもの
- 延長コード : 電源プラグから差込口までが延長されており、差込口が一口のもの
- マルチタップ : 電源プラグから差込口までが延長されておらず、複数の差込口を有するもの
- コードリール : 電源プラグから差込口までが延長されており、複数の差込口を有し電源コードが巻取り収納できるもの

各部名称

コードプロテクター
(本体側)



電源タップ
(テーブルタップ、延長コードの
本体部分)



差込口

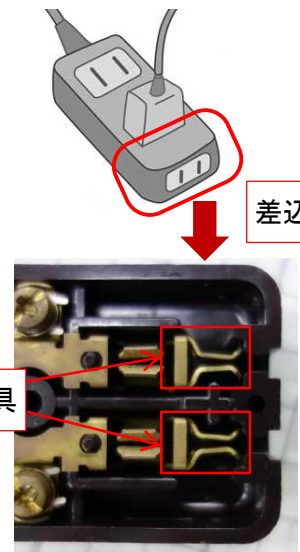


電源コード

電源プラグ

電源プラグ栓刃

刃受け金具



差込口内部

差込口

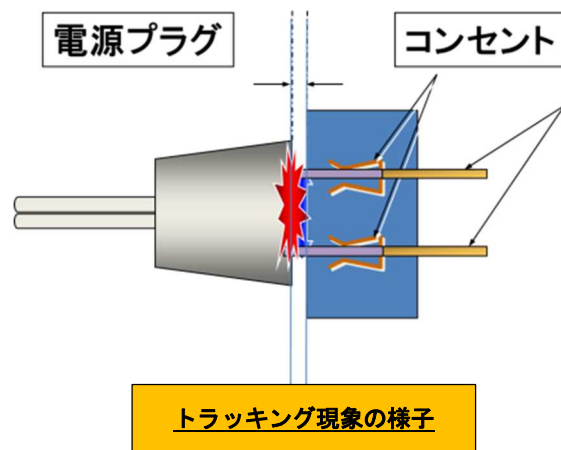
電源タップ内部

1. 事故メカニズム

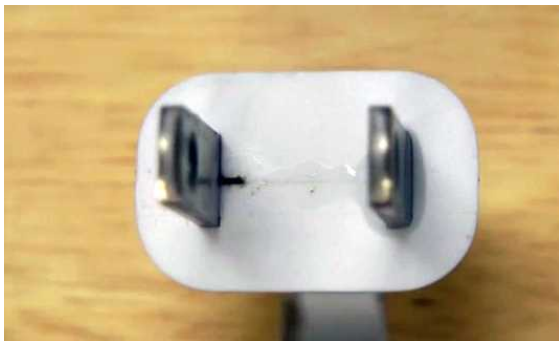
1-1. トラッキング現象の仕組み

コンセントや延長コード、テーブルタップなどに電源プラグを長期間差し込んだままにしていると、コンセントや電源プラグの周囲、隙間にほこりや水分が付着します。

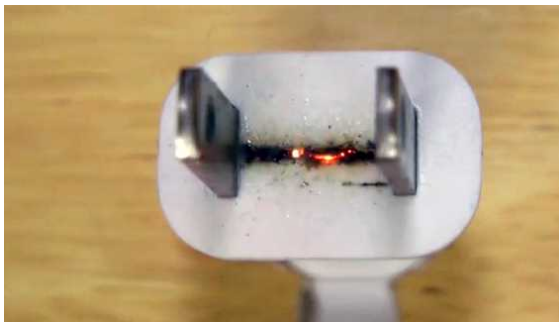
付着したほこり、水分によって電源プラグ栓刃の間に微弱な電流が流れる状態となり、火花放電を繰り返すことによって電源プラグの樹脂部分が徐々に炭化していき、トラック（電気の通り道）が形成されて異常発熱して、発火へと至る現象を「トラッキング現象」といいます。



トラックが成長する過程（再現実験）



ほこり、水分などの付着により
プラグ栓刃間で火花放電が発生。



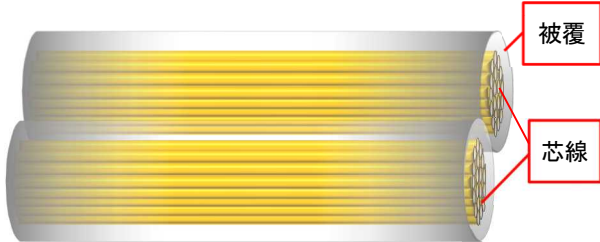
繰り返し火花放電が発生し、
プラグ栓刃間が炭化する。



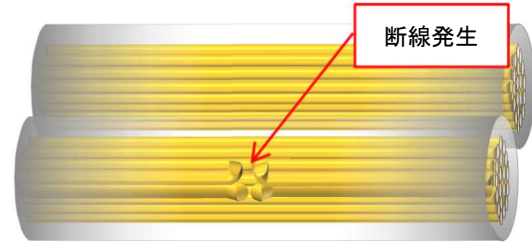
炭化により電気抵抗が低下し、
プラグ栓刃間がショートし発火する。

1-2. 電源コードの断線・ショート仕組み

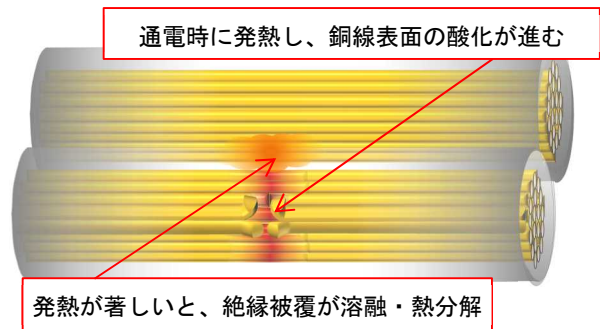
電源コードが断線してショートする過程を次の①～④で示します。



- ① 正常時の電源コード内部の様子
 (※) コードの被覆部を透明にして、内部の芯線を見えるようにしている。

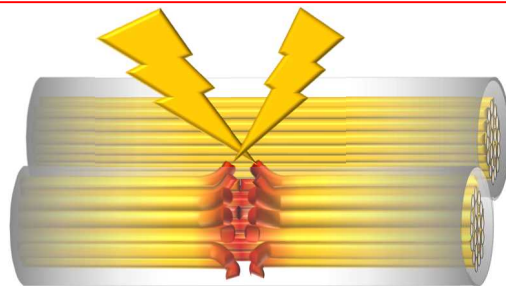


- ② 使用中の屈曲や引っ張りなどによって芯線の一部が断線した状態（断線初期）
 このまま使用を続け、さらに外から無理な力が加わると、断線箇所や断線本数が増える。



- ③ 芯線が部分的に断線した電源コードに電流が流れると、断線部分では電流の通り道が細くなっているため、その部分で温度が上昇し、樹脂製の絶縁被覆が熱分解される。（コードの表面が熱で溶ける）

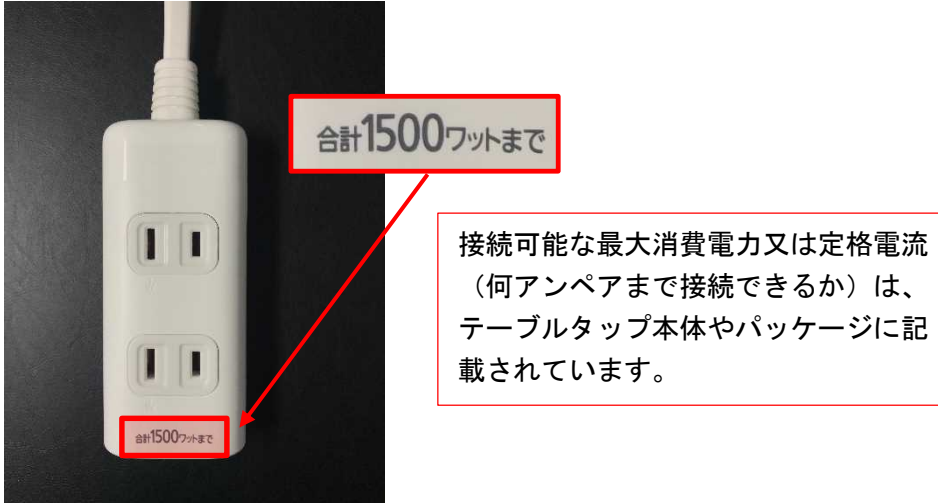
被覆の溶融や断線進展により芯線が絶縁部分を突き抜けショート



- ④ 異常発熱によって、絶縁被覆が破壊され、そこに過負荷（大きすぎる電流）やコードを束ねて使用していたなどの条件が重なると、異極間の芯線が接触してショートする可能性がある。

1-3. 最大消費電力の超過による配線器具への負荷

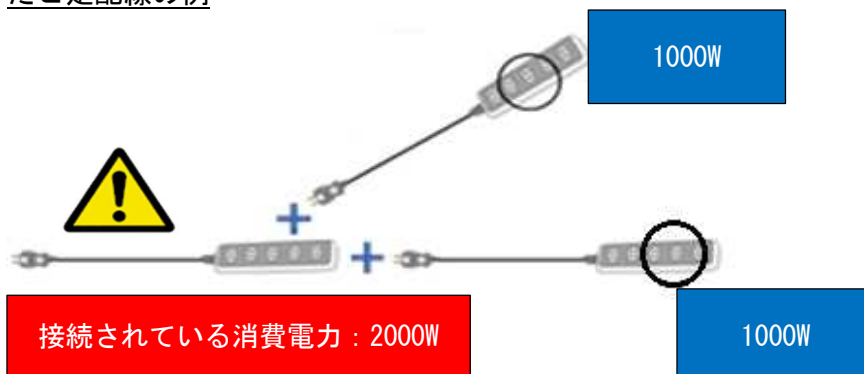
テーブルタップやコードリールには接続可能な最大消費電力が定められています。接続可能な最大消費電力を超えると発熱を生じ、配線の劣化（断線）やトラッキング現象を引き起こしやすくなります。エアコンのような始動時に一時的に大電流が流れる製品は接続可能な最大消費電力の範囲内であっても、テーブルタップなどを使用すると異常発熱し、発煙・発火のおそれがあります。事前に接続する電気製品の取扱説明書や本体表示を確認してください。



接続可能な最大消費電力の表示例



たこ足配線の例



接続可能な最大消費電力を超えることで電源プラグ及び電源コードに過大な負荷がかかる

※接続可能な最大消費電力を 1500W とした場合

2. 事故発生状況

NITEが収集した製品事故情報のうち、2015年度から2019年度に発生した配線器具の事故282件及びプラグ・コードの事故276件について、事故の発生状況を示します。

2-1. 製品ごとの事故発生件数

図1-1に配線器具、図1-2にプラグ・コードの事故における「製品ごとの事故発生件数」を示します。配線器具の中ではテーブルタップの事故が多くを占めています。プラグ・コードの事故ではヘアアイロンが最も多く、これは非火災の74件全て同一のリコール製品による事故です。次いで電気ストーブやファンヒーターなど、消費電力の大きな製品で事故が発生しています。配線器具、プラグ・コードどちらも火災事故が多く発生しています。

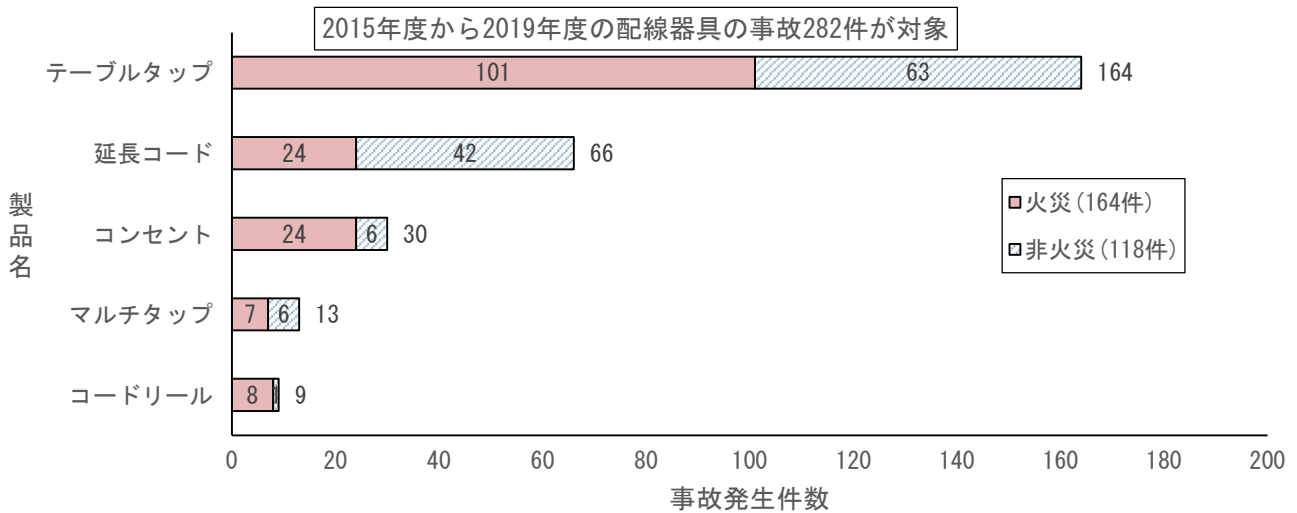


図1-1 製品ごとの事故発生件数（配線器具の事故）

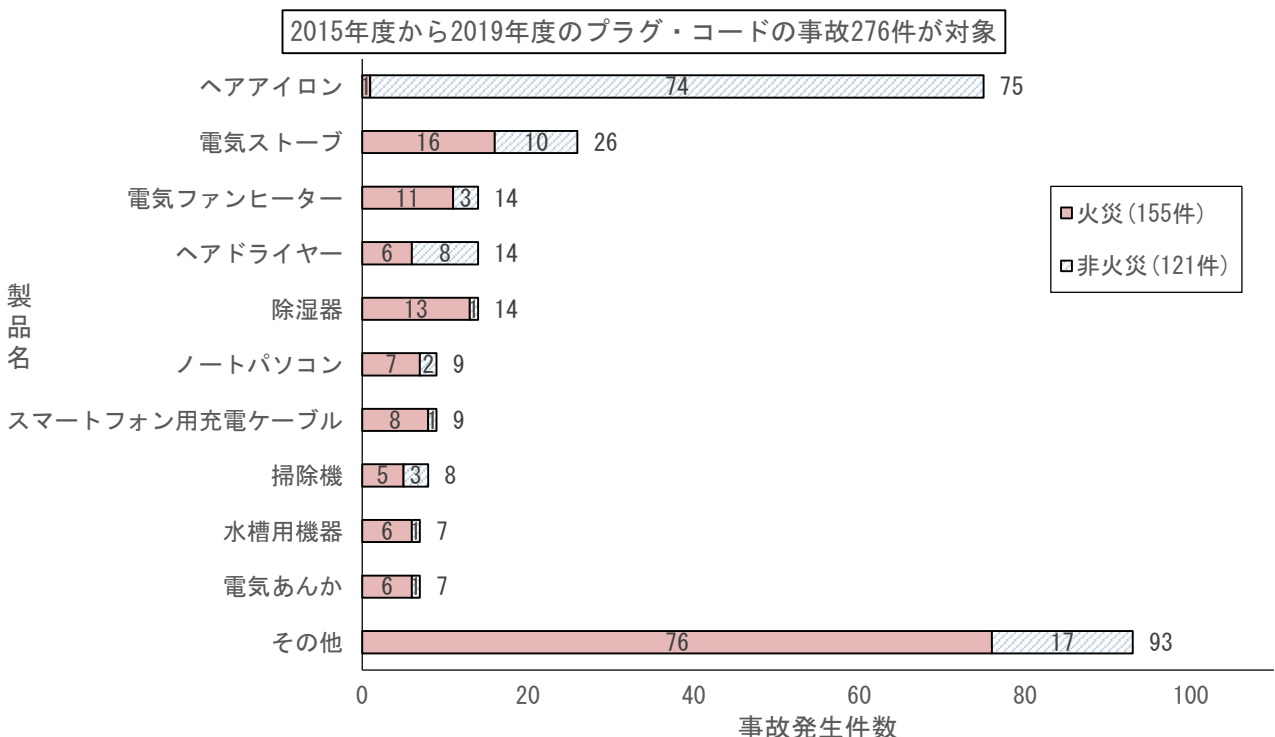


図1-2 製品ごとの事故発生件数（プラグ・コードの事故）

3. 事故の詳細について

3-1. 事故の発生状況

配線器具の事故及びプラグ・コードの事故のうち、火災事故について、事故発生状況を示します。

3-1-1. 配線器具の火災事故

表1に配線器具の火災事故164件のうち、使い方や設置状況により発生したと推定される事故96件の「事故発生状況別の被害状況」を示します。

ほこり、水分の付着によるトラッキング現象の事故が最も多く発生しています。コンセントや電源タップ周辺を清掃しましょう。また、水分などが浸入しないよう、清掃はから拭きで行ってください。

表1 事故発生状況別の被害状況^{※5}

事故の発生状況	被害状況		物的被害		総計	
	人的被害	物的被害	拡大被害	製品破損		
	死亡	軽傷				
ほこり、水分の付着や液体などの浸入により電源タップやコンセントでトラッキング現象が発生して異常発熱	1 (1)		26	5	32 (1)	
電源コードやコードプロテクターに無理な力が加わり、断線してショート		1 (1)	20	2	23 (1)	
電源プラグに無理な力が加わり、電源プラグ栓刃と刃受け金具間で接触不良が生じて異常発熱			17	5	22 (0)	
接続可能な最大消費電力を超える電気製品を接続して異常発熱			3	2	5 (0)	
電源プラグに無理な力が加わり、電源プラグ栓刃可動部 ^{※6} に接触不良が生じて異常発熱		1 (1)	4		5 (1)	
その他			9		9 (0)	
総計	事故件数 被害者数	1 (1)	2 (2)	79 (0)	14 (0)	96 (3)

(※5) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。

人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(※6) 電源プラグの可動部分(別紙2参照)。

3-1-2. プラグ・コードの火災事故

表2にプラグ・コードの火災事故155件のうち、使い方や設置状況により発生したと推定される事故117件の「事故発生状況別の被害状況」を示します。

電源コードに外から力を加えてショートする事例が117件中63件（約56%）と多く発生しています。配線につまずいたり、製品移動時に引っ張ったりすると電源コードに力が加わり、事故に至るおそれがあるため注意してください。

表2 事故発生状況別の被害状況^{※7}

事故の発生状況	被害状況	人的被害		物的被害		総計
		重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	
電源コードやコードプロテクターに無理な力が加わり、断線してショート		1 (1)	4 (5)	50	8	63 (6)
電源プラグに無理な力が加わり、電源プラグ栓刃と刃受け金具間で接触不良が生じて異常発熱				13		13 (0)
ほこり、水分の付着や液体などの浸入により電源プラグでトラッキング現象が発生して異常発熱			2 (5)	10		12 (5)
電源コードのねじり接続などの修理不良による異常発熱				8	4	12 (0)
スマートフォン用充電器の接続部分に水分などが浸入して異常発熱				9	1	10 (0)
ACアダプターと電源コードの接触不良による異常発熱			1 (1)	2	2	5 (1)
電源プラグに無理な力が加わり、電源プラグ栓刃可動部に接触不良が生じて異常発熱				2		2 (0)
総計	事故件数	1	7	94	15	117
	被害者数	(1)	(11)	(0)	(0)	(12)

(※7) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。

人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

3-2. 事故事例

(ア) トラッキング現象による事故

2018年4月（沖縄県、30歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

テーブルタップにモデムとルーターを接続して使用中、テーブルタップ及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

屋内で犬と猫が放し飼いされており、テーブルタップのタップ部内部にペットの尿が浸入したため、内部でトラッキング現象が発生し、出火したものと考えられる。テーブルタップのコードにはペットの噛み跡が残っていた。

気を付けるポイント①

○電源プラグ及び電源タップは水分やほこりが付着しないように掃除する

電源プラグはコンセントとの間に隙間が生じないようにしっかりと差し込み、定期的に掃除してほこりを取り除いてください。電源プラグをコンセントとの間に隙間がある状態で長期間差したままにすると、電源プラグに異物が接触したり、ほこりやペットの尿などの液体が付着したりすることで、ショートやトラッキング現象が生じるおそれがあります。アルコール消毒液も浸入すればショートやトラッキング現象を引き起こすおそれがあるので浸入しないよう注意してください。また、電源タップやコンセントに何も差していなくても、差込口にほこり、水分などの異物が付着すると、トラッキング現象が生じるおそれがあります。

配線器具の中には、ほこりなどの異物が入りづらいように差込口にシャッターが付いた製品なども販売されています。必要に応じて使用を検討してください。



(イ) 電源コードや電源プラグに外から力が加わり発火

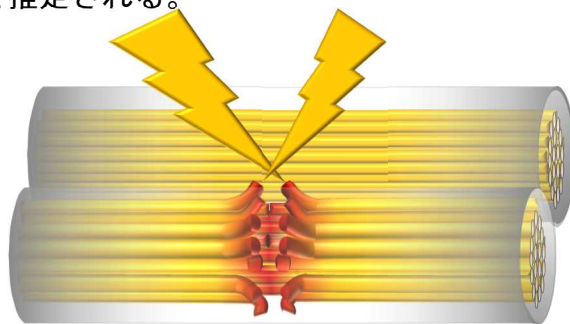
2018年11月（福井県、30歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

テーブルタップに携帯電話やゲーム機など複数の電気製品を接続していたところ、製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

テーブルタップの電源コードはコンセント付近の壁の隅で過度に折り曲げられた状態であり、ふとんの下に挟み込まれていた。更に使用者は携帯電話の抜き差しなどでコードを強く引っ張っていたため、電源コードが過度な屈曲を受け、芯線が断線、スパークし、出火したものと推定される。



電源コードの断線図

（断線・ショートについてはP4参照）

2017年5月（新潟県、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

掃除機の電源プラグ部及び接続していたコンセント周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

コンセントへの抜き差しや、使用中の引っ張りなどで掃除機の電源プラグ内部の栓刃部材に過度な外力が繰り返し加わったため、栓刃が損傷して接触不良となり、動作時の電流により異常発熱して出火に至ったものと考えられる。

気を付けるポイント②

○電源コードは傷つけず、無理に力を加えない

延長コードやテーブルタップ及び電気製品の電源コードを屈曲させる、踏みつける、といった外部から電源コードに無理な力が加わる使い方をすると、電源コードの芯線が断線して、異常発熱や発火の原因となるおそれがあります。

<注意事項>

- 電源コードを机やドアなどに挟み込まないように、設置場所に配慮する。
- キャスターなどが通過する場所は電源コードにカバーを付けるなどすることで、保護しておく。
- 電源コードを傷付けるおそれがあるため、ステープルや釘、針金などで固定しない。
- 電源コードを束ねた状態では使用しない。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、電源コードを引っ張らないように、電源プラグを持って抜く。

（参考：一般社団法人日本電機工業会「家電製品の正しい使い方」）

<https://www.jema-net.or.jp/Japanese/ha/productsafety/usage/>

(ウ) 接続可能な最大消費電力を超えた使用による事故

2018年11月（北海道、年齢不明・男性、拡大被害）

【事故の内容】

使用中のコードリール付近から出火し、建物を半焼した。

【事故の原因】

複数台のふとん乾燥機をコードリールに接続して使用したため、接続可能な最大消費電力を超え、コードが異常発熱して短絡・スパークが生じ、焼損したものと考えられる。

気を付けるポイント③

○接続可能な最大消費電力を超えて使用しない

テーブルタップやコードリールには接続可能な最大消費電力が定められています。電気製品を接続する際は、接続可能な最大消費電力を超えないように注意してください。接続可能な最大消費電力又は定格電流（何アンペアまで接続できるか）は、テーブルタップ本体やパッケージに記載されています。

複数の電気製品を接続する際は、それぞれの消費電力を確認し、合計の消費電力が接続可能な最大消費電力を超えないように注意してください。コードリールの場合、電源コードを全て引き出して使用するものや、電源コードを全て引き出した状態と収納した状態とで接続可能な最大消費電力が異なるものがあるため、使用する際は取扱説明書や本体表示・警告文を確認してください。

○消費電力の大きな機器はテーブルタップなどを使用していいか確認する

消費電力の大きな電気製品の中には、テーブルタップなどの使用を禁止しているものがあります。また、エアコンは始動時に一時的に大電流が流れることがあるため、接続可能な最大消費電力の範囲内であっても、テーブルタップなどを使用すると異常発熱し、発煙・発火するおそれがあります。事前に接続する電気製品の取扱説明書や本体表示を確認し、記載されている指示に従ってください。

○複数の延長コードやテーブルタップを連結（たこ足配線）しない

延長コードやテーブルタップを連結しないようにしてください。接続可能な最大消費電力を超えてしまい、異常発熱が発生するおそれがあります。

テーブルタップを複数連結させると、それぞれのテーブルタップは接続可能な最大消費電力以下であっても、元になるテーブルタップは接続可能な最大消費電力を超えるため、異常発熱のおそれがあります（P5参照）。

気を付けるポイント④

○事故の予兆を見逃さない

配線器具の事故やプラグ・コードの事故では、事故発生以前に事故の予兆がみられる場合があります。製品の挙動に異常が生じたり、異臭がしたり、不意にブレーカーが作動したりするなどの異常現象が確認されています。事故の予兆を見逃さず、少しでもおかしいと感じたら、ためらわずに使用を中止してください。

(参考) 確認された主な予兆

確認された異常(予兆)	異常の原因
事故以前から異臭がしていた	プラグなどの接触状態が悪く、異常に発熱していた
差込口が変色していた	トラック(電気の通り道)が形成され始めていた
接続している電気製品が点いたり消えたりしていた	内部に断線・接触不良などが生じていた
電源プラグにがたつきがあった	無理な力が加わって変形し、接触不良が生じていた

○予兆の確認にご活用を

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「SAFE-Lite (セーフ・ライト)」のサービスを行っております。製品の利用者が普段お使いの言葉で、製品事故が発生する前にみられる「予兆(現象)」情報を入力すると、同じ現象の事故だけではなく、よく似た事故の情報も表示されます。複数の現象を確認することにより、様々な視点から事故となる危険性やその場合の被害状況などがわかります。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jikoiohou/safe-lite.html>

○配線器具は使用に伴い劣化していきます

長期間使用している配線器具は、劣化によって上述のような予兆がみられる場合があります。また、事故の予兆がみられない場合であっても製品が長期間使用されている場合は電源プラグが変形していたり、電源コードの芯線が断線してしまったりなど劣化しているおそれがあるので、製品の電源プラグ部分や差込口などの状態を確認してください。また、外観上異常が認められなくても、電源プラグや電源コードの内部が劣化しているおそれがあるため、取り換えを検討しましょう。

(参考：一般社団法人 日本配線システム工業会 HP <https://www.jewa.or.jp/>)

リコール製品による事故を防ぐために

配線器具の事故 282 件、プラグ・コードの事故 278 件のうち、リコール製品による事故が 186 件（配線器具 93 件、プラグ・コード 93 件）ありました。

リコール情報は、新聞やダイレクトメールなどで繰り返し告知されている場合や、事業者のホームページのみに掲載されている場合があります。

お持ちの製品がリコール対象かどうかを確認していただき、事故を未然に防ぎましょう。

リコール製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても使用を中止し、お買い求めの販売店や製造・輸入事業者の確認や相談をしてください。

消費者庁のリコール情報サイトにおいて、最新のリコール情報や、キーワードによるリコール情報の検索を行うことができます。

また、「リコール情報メールサービス」に登録することでリコール情報が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/index.php>



お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 小田 泰由
担当者 柿原、佐藤、向井

Mail : ps@nite.go.jp

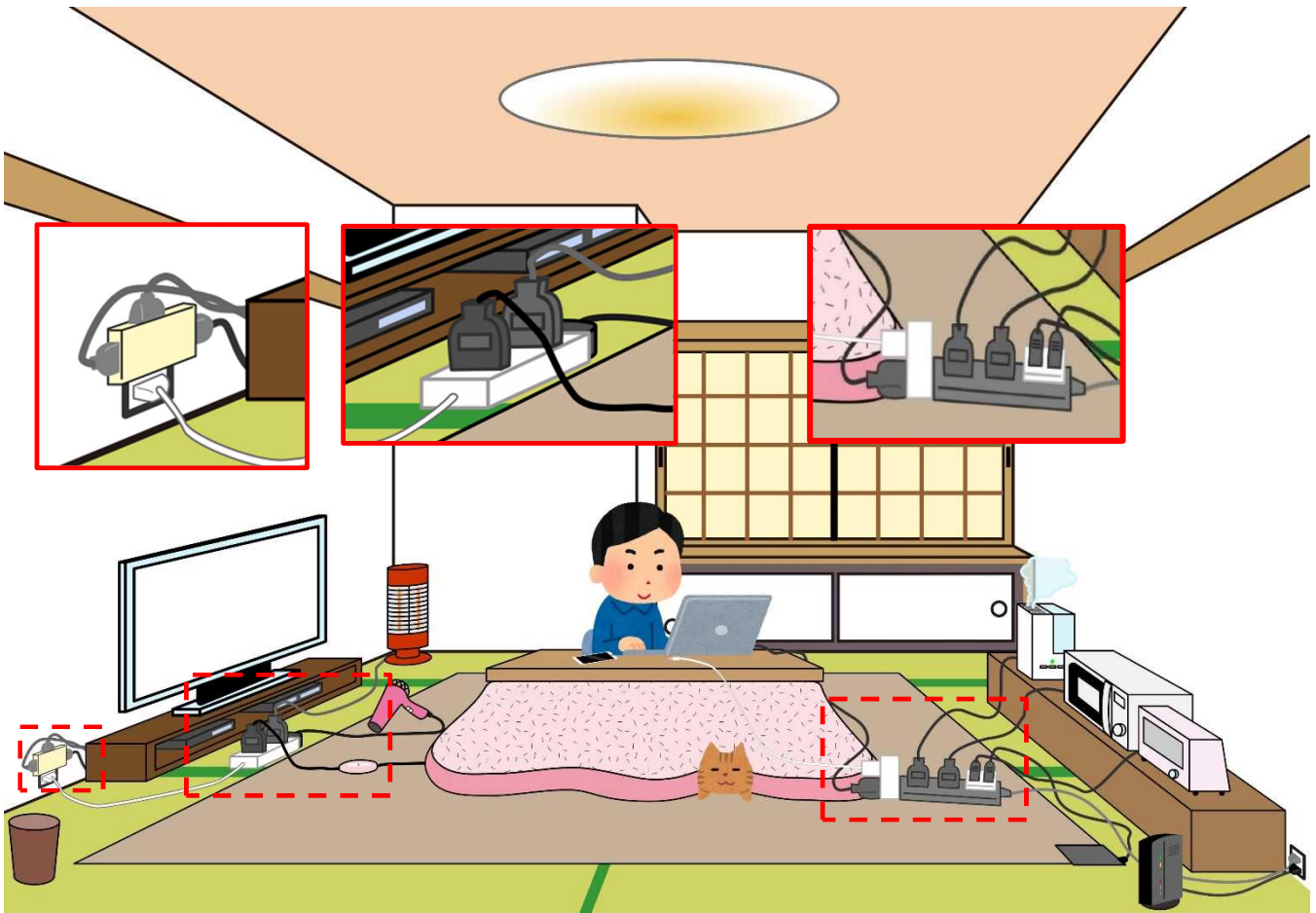
Tel : 06-6612-2066

電気製品の消費電力 (目安)

[参考] 身近な電気製品の消費電力の目安 (NITE 作成)

製品名	消費電力	製品名	消費電力
アイロン	1,200~1,400W	オイルヒーター	500~1,500W
ヘアドライヤー	600~1,200W	電気ストーブ	200~ 800W
掃除機	1,000~1,100W	電気温風暖房機	600~1,200W
電子レンジ (30 ㍻クラス)	1,500W	電気カーペット	250~ 750W
ホットプレート	1,300W	電気こたつ	500W
オーブントースター	1,300W	電気あんか	30W
食器洗乾燥機	1,200~1,300W	エアコン (100 ボルト)	440~1,040W
炊飯器	350~1,200W	除湿機	300~ 600W
冷蔵庫	150~ 500W	加湿器	200~ 300W
電気ケトル	1,200~1,400W	空気清浄機	100W
電気ポット (沸騰時)	700~1,000W	ノートパソコン	30~50W
液晶テレビ (50 インチ)	120~ 160W	スマートフォン用充電器	3~10W

注記： 製品の取扱説明書に「コンセントは、定格 15 A 以上を単独で使う。」や「コンセント・延長コードは、定格 15 A 以上を単独で使う。」旨、記載されている製品があります。製品の取扱説明書の注意事項等をよく読んでより安全な使い方をしましょう。



危険なポイント

- ・ たこ足配線を行っている
- ・ 一つのタップに消費電力の大きい製品を複数接続している

電源プラグとコンセントにおける事故を防止するための技術基準について※

※経済産業省 電気用品安全法のホームページを参照。

(<https://www.meti.go.jp/policy/consumer/seian/denan/topics.html#t5>)

1. 電源プラグのトラッキング現象の防止

電源プラグのトラッキング現象による事故を防止するため、水回りで多く使用される電気冷蔵庫・冷凍庫を対象に、電気用品安全法に基づく「電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈について」において、電源プラグに耐トラッキング性を持たせるための技術基準が定められています。

一方で、水回りに設置した製品以外でもトラッキング現象による事故が生じている状況をふまえ、平成 26 年 9 月からは電源プラグ、マルチタップ、ダイレクトプラグイン機器、漏電遮断器が、平成 27 年 1 月からは家庭内で日常的に使用される全ての電気製品において耐トラッキング性が要求されることとなりました。

平成 28 年 3 月 17 日までの移行期間の後、家庭内で日常的に使用される全ての電気製品は、耐トラッキング性を有するものが製造・輸入されることとなっています。

(1) これまでの経緯

① 電気冷蔵庫・冷凍庫の電源プラグに耐トラッキング性が要求事項として策定

(平成 21 年 9 月 11 日 改正：移行期間は平成 22 年 8 月 31 日まで)

電気冷蔵庫・冷凍庫に使用されている電源プラグは比較的大電流が常時通電しており、また、湿気の高い場所に設置されることが多いことから、トラッキング現象を防止するため、電源プラグの耐トラッキング性を個別要求事項として規定した。

② 電源プラグ、ダイレクトプラグイン機器、漏電遮断器などに適用範囲を拡大

(平成 26 年 9 月 18 日 改正：移行期間は平成 27 年 9 月 17 日まで)

トラッキング現象が、台所などの水回りに設置した製品以外でも発生している状況をふまえて、電源プラグ単体や本体に栓刃を有する機器（マルチタップ、ダイレクトプラグイン機器、漏電遮断器など）を対象に、耐トラッキング性を要求事項として規定した。

③ 家庭内で日常的に使用される全ての電気製品に適用範囲を拡大

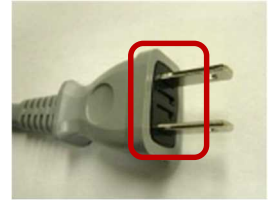
(平成 27 年 1 月 16 日 改正：移行期間は平成 28 年 3 月 17 日まで)

トラッキング現象が、台所などの水回りに設置した製品以外でも発生している状況をふまえて、家庭内で日常的に使用される全ての電気製品を対象に、耐トラッキング性を要求事項として規定した。

(2) 耐トラッキング性の要求事項

電源プラグの耐トラッキング性の要求事項として、次の①及び②が定められています。

- ① コンセントとの突き合わせ面に接する電源プラグ外面で、栓刃に直接接する絶縁材料について、一定の耐トラッキング性能（トラッキングの起こりにくさ）を有すること。
- ② 栓刃間を保持する絶縁材料について、一定の耐火性を有すること。

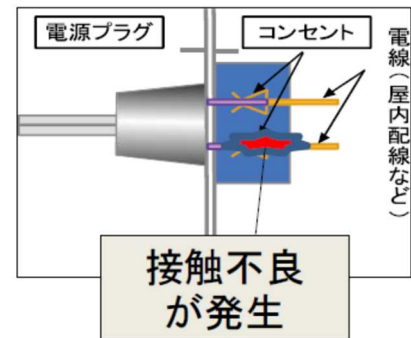


2. コンセントと電源プラグの接触不良の防止

コンセント

使用中の電源プラグの横方向に力が加わり、コンセントの差込口の刃受け金具の間隔が開くことにより、栓刃と刃受け金具の接触部で接触不良が生じて、異常発熱により火災などが発生しています。

これらの接触不良による事故を防止するため、「電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈について」において、平成27年7月24日より、コンセントについて、以下のとおり要求事項が追加されました。



(図) 電源プラグとコンセントの接触不良の様子

○コンセントに差し込んだ試験用プラグに、通常使用状態の横方向に荷重を加えた場合であっても試験用プラグがコンセントから抜けないこと。加えて、荷重を加えた後の開閉試験後の温度上昇が定められた範囲内であること。

電源プラグ

延長コードやテーブルタップに多くみられる可動式電源プラグの可動部で接触不良が生じたりすることで、異常発熱により火災などが発生しています。

これらの接触不良による事故を防止するため、「電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈について」において、平成27年7月24日より、可動式プラグについて、以下のとおり要求事項が追加されました。

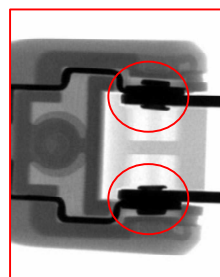
○定格電流を通じた状態で、可動範囲で連続して回動した後の温度上昇が定められた範囲内であること。



(図) 可動式プラグ

可動部

拡大・透視



栓刃と、土台となる金具をリベットで固定しているため、繰り返し可動することで間隔が広がり、接触不良が生じるおそれがある。

NITEが収集した製品事故情報のうち、2015年度から2019年度に発生した配線器具の事故282件について、事故の発生状況を示します。

年度別の事故発生件数

図2に配線器具の事故における「年度別の事故発生件数」を示します。近年減少していますが、依然として火災事故は発生し続けています。

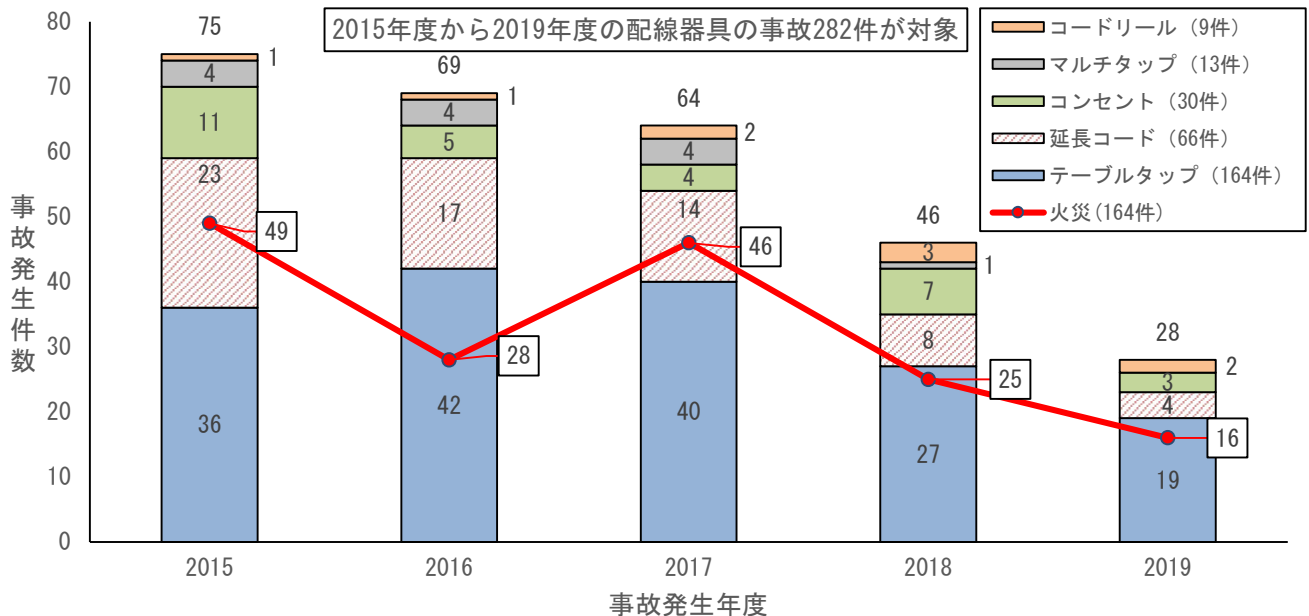


図2 年度別の事故発生件数

月別の事故発生件数

図3に配線器具の事故における「月別の事故発生件数」を示します。配線器具の事故は冬に多く発生しています。これは消費電力の大きい電気ストーブなどの電気暖房器具を使用する機会が増え、それらの接続のために配線器具を使用するためと考えられます。(身近な電気製品の消費電力については別紙1参照)

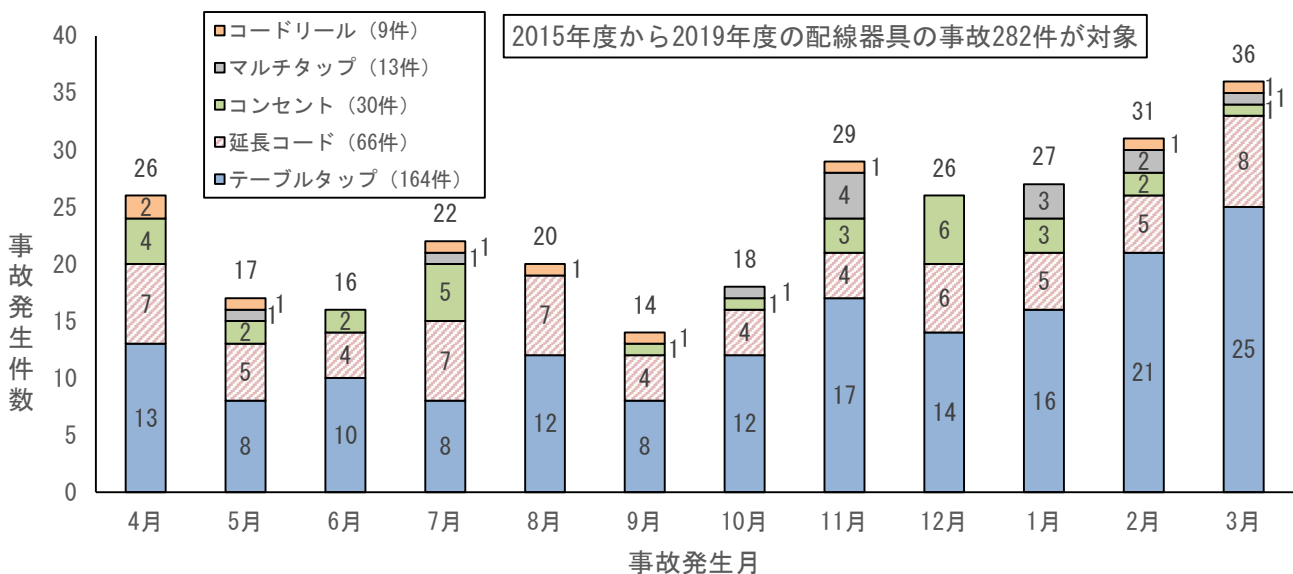


図3 月別の事故発生件数

NITEが収集した製品事故情報のうち、2015年度から2019年度に発生したプラグ・コードの事故276件について、事故の発生状況を示します。

年度別の事故発生件数

図4にプラグ・コードの事故における「年度別の事故発生件数」を示します。増減を繰り返しつつ近年減少しています。

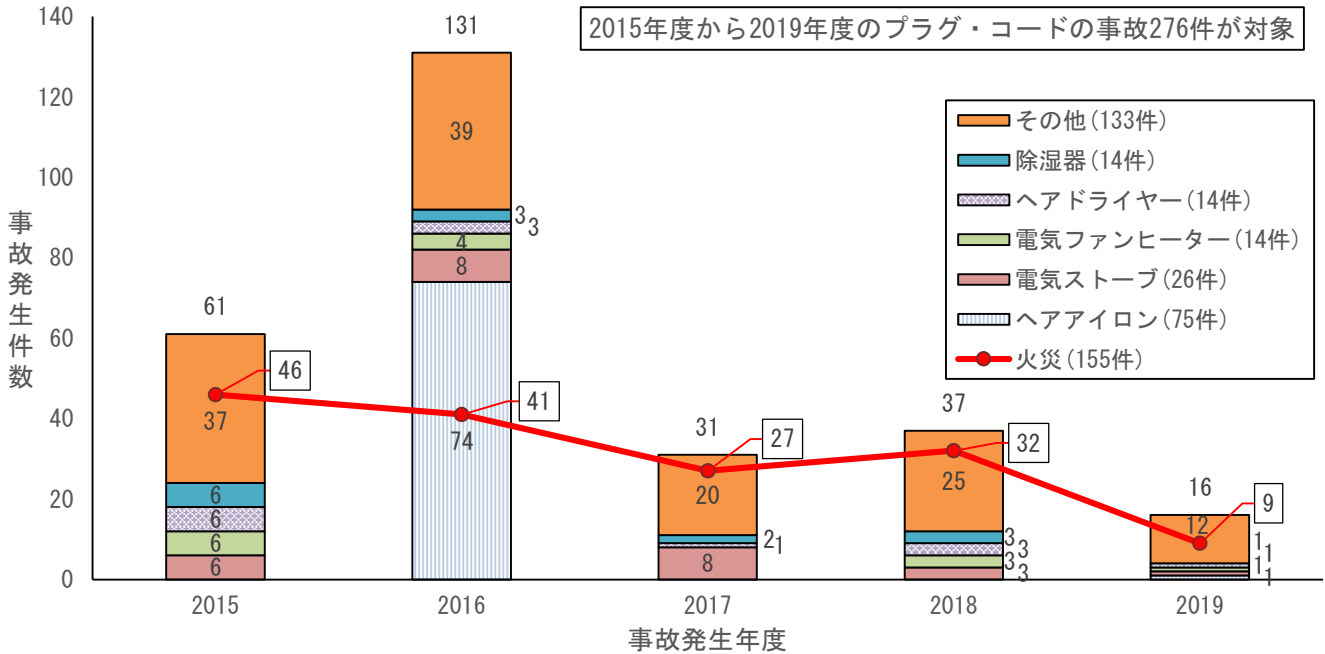


図4 年度別の事故発生件数

月別の事故発生件数

図5にプラグ・コードの事故における「月別の事故発生件数」を示します。5月・6月の数値が大きいです。これは多発したヘアアイロンのリコール事故によるものです。それらの突出した数値（4～6月の74件）を除いた場合配線器具の事故と同様に冬に多く発生しています。理由も配線器具と同様、消費電力の大きい電気ストーブなどの電気暖房器具による事故が増加するためと考えられます。

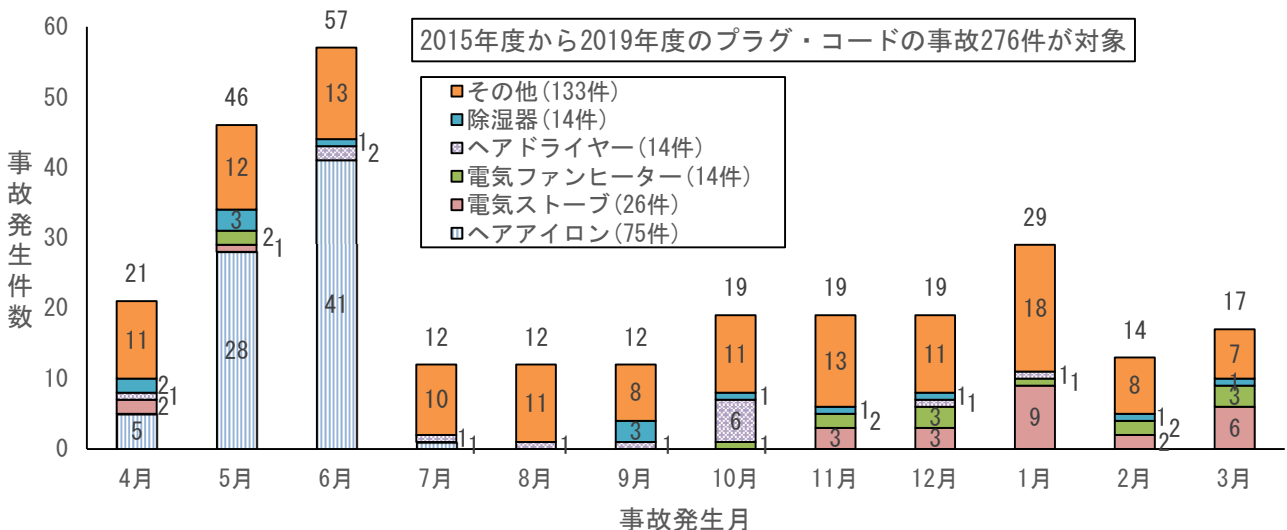


図5 月別の事故発生件数

公表日	品名	事業者名称	社告内容
配線器具の事故に係るリコール			
2015/9/24	延長コード	株式会社セリア 法人番号： 4200001013662	<p>[製品名及び型式] 製品名：延長コード</p> <p>差し込み口数：1 長さ・色：1.5m・白／1.5m・黒／1m・白／20cm・白 差し込み口数：3 長さ／色：1m・白</p> <p>[販売等期間] 2010年11月～2013年12月</p> <p>[社告等の内容] 当製品において、コードが破損し、スパークする事故が発生したことが判明。 ※該当商品使用または所有している方は、直ちに使用を中止し、最寄りのセリア各店舗へお持ちいただくか、下記のフリーダイヤルに連絡してください。</p> <p>[対処方法] 回収（返金）</p> <p>[問い合わせ先等] 延長コードお問合せ窓口 専用フリーダイヤル：0120-284-321 受付時間：月～土曜日 9:00～18:00（日曜日を除く） https://www.seria-group.com/info/20150924.html</p>
2014/5/19	テーブルタップ/ マルチタップ	コーナン商事株式会社 法人番号： 3120101003135	<p>[製品名及び型式] 電気用品安全法に違反した製品</p> <p>(商品名、品番、及びリコールの対策内容等については下記アドレスを参照) 回収商品検索ページアドレス http://www.kohnan-oshirase.com/</p> <p>[販売等期間] 2002年4月～2014年4月</p> <p>[社告等の内容] 当社が販売したプライベートブランド電気用品において、電気用品安全法が規定する、商品の安全性に係る義務を果たしていない商品があることが判明。</p> <p>[対処方法] 回収（商品代金返金）</p> <p>[問い合わせ先等] コーナン商事株式会社 回収専用コールセンター ・フリーダイヤル：0120-171-657 ・受付時間：09:00～17:00(土・日・祝日を除く) ・URL：http://www.hc-kohnan.com/important/images/2014.05.19_owabitojisuyukaisyu.pdf</p>
プラグ・コードの事故に係るリコール			
2016/7/19	ヘアアイロン	三木電器産業株式会社 法人番号： 3120901013449	<p>[製品名及び型式] ブランド名：Onedam 商品名：ヘアアイロン 品番：1) AHI-250BK 2) AHI-250WH 3) AHI-240 4) AHI-248 5) AHI-440 6) AHI-1100 *製品の製造年月の確認方法に関しては、下記のURLのページで確認してください。</p> <p>[販売等期間] 1) 2015年12月～2016年5月(製造) 2) 2015年12月～2016年5月(製造) 3) 2016年1月(製造) 4) 2016年1月(製造) 5) 2016年1月(製造) 6) 2016年5月(製造)</p> <p>[社告等の内容] 当製品において、特定期間に採用した電源コードの不具合により、ショートし、発煙、発火に至る可能性があることが判明。</p> <p>[対処方法] 無償点検（無料部品交換）</p> <p>[問い合わせ先等] 三木電器産業株式会社 ヘアアイロン相談室 ◆電話番号：0120-112-101（携帯電話・PHSからもご利用いただけます。） ◆受付時間：9時～17時（土・日・祝日を除く） URL：https://onedam.co.jp/support/recall/</p>

公表日	品名	事業者名称	社告内容
2014/7/9	コーヒーメーカー	コーナン商事株式会社 法人番号： 3120101003135	<p>[製品名及び型式] 電気用品安全法に違反した製品 (商品名、品番、及びリコールの対策内容等については下記アドレスを参照) 回収商品検索ページアドレス http://www.kohnan-oshirase.com/</p> <p>[販売等期間] 2002年4月～2014年4月</p> <p>[社告等の内容] 当社が販売したプライベートブランド電気用品において、電気用品安全法が規定する、商品の安全性に係る義務を果たしていない商品があることが判明。 *2014年5月19日に事業者ホームページに掲載した回収対象商品の追加情報</p> <p>[対処方法] 回収(商品代金返金)</p> <p>[問い合わせ先等] コーナン商事株式会社 回収専用コールセンター ・フリーダイヤル：0120-171-657 ・受付時間：09:00～17:00(土・日・祝日を除く) ・回収対象商品情報 2014年5月19日掲載 URL：http://www.hc-kohnan.com/important/images/2014.05.19_owabitojisyukaisyu.pdf 2014年7月9日掲載(追加分) URL：http://www.hc-kohnan.com/important/images/2014.07.09_owabitojisyukaisyu.pdf</p>
2012/10/17	液晶プロジェクター	三洋電機株式会社 法人番号： 1120001155854 /松下電器産業株式会社(現 パナソニック株式会社) 法人番号： 5120001158218	<p>[製品名及び型式] ◎三洋電機株式会社 1)品番LP-Z3 JANコード： (S) 4973934392120/(K) 4973934392113</p> <p>◎松下電器産業株式会社 2)品番：TH-AE200 JANコード：4984824537170 3)品番：TH-AE300 JANコード：4984824537187 4)品番：TH-AE500 JANコード：4984824581937 5)品番：TH-AE700 JANコード：4984824630932</p> <p>[販売等期間] 1)2004年9月～2005年12月 2)2002年9月～2003年9月 3)2002年10月～2003年8月 4)2003年10月～2004年8月 5)2004年9月～2005年8月</p> <p>[社告等の内容] 当製品において、一部の製品におきまして、電源コードのコネクタ内部の絶縁劣化により、発煙・発火に至る可能性があることが判明。</p> <p>[対処方法] 電源コードを無料にて交換・回収</p> <p>[問い合わせ先等] ・フリーダイヤル：0120-878-560 ・受付時間：9:00～21:00まで(日・祝日を除く月～土曜) ・URL：https://av.jpn.support.panasonic.com/support/info/ZA.html</p>

公表日	品名	事業者名称	社告内容
2008/6/20	オーブンレンジ	三洋電機株式会社 法人番号： 1120001155854	<p>[製品名及び型式] ●全数対象の機種 下記の機種は、本体前面右下の機種名をご確認ください。 EMO-BC8 EMO-CH10 EMO-MVP7 EMO-SJ9 EMO-CH4 EMO-H40 EMO-S4 EMO-T5 EMO-CH5 EMO-H60 EMO-S5 EMO-T6 EMO-CH6 EMO-KDH1 EMO-S6 EMO-T7 EMO-CH7 EMO-ME5 EMO-S7 EMO-TH5 EMO-CH8 EMO-MVP5 EMO-S8 EMO-TH6 EMO-CH9 EMO-MVP6 EMO-S9 EMO-CH8FF※</p> <p>●製造番号により一部対象の機種 下記の機種は、本体右側面の機種名、製造番号をご確認ください。 EMO-CH3 (HW) 対象製造番号：023001～025000 EMO-S3 (HL) 対象製造番号：043501～051500 EMO-SH1 (H) 対象製造番号：006001～009000 ※ Francfrancブランドのオーブンレンジ「EMO-CH8FF」は、同じく点検・修理させていただきます</p> <p>[製造期間] 2000年6月～2007年9月</p> <p>[社告等の内容] 当製品において、電源コード（本体内）の不具合により、オープン・グリル運転コースの使用時に部品の一部が発煙・発火する可能性のあることが判明。</p> <p>[対処方法] 無償点検・修理</p> <p>[問い合わせ先等] オーブンレンジ相談室 ・フリーダイヤル：0120-34-1105 ・受付時間：9:00～17:00（土・日・祝日は除く） http://panasonic.co.jp/sanyo/info/products_safety/080711.html</p>
2004/11/1	電気食器洗い機／ 電気衣類乾燥機	ボッシュ株式会社 法人番号： 7011001012340	<p>[製品名及び型式] ・電気乾燥機（衣類乾燥機） (1) WTA2300 WTA2910 WTL4100～WTL4610 WTU4200～WTU4600</p> <p>・電気食器洗い機（ビルドイン形） (2)幅60Cmタイプ幅 SMI5011～SMI6032 SMS2011～SMS6021 SMU2011～SMU2021 S510 *上記機種のうち、製造番号がFD6901～FD7212の製品が対象</p> <p>(3)幅45Cmタイプ SPI5011～SPI6322 SPS2011～SPS6122 P612 P512</p> <p>[販売等期間] (1)1988年1月～1992年12月 (2)1984年1月～1992年12月 (3)1987年1月～1992年12月</p> <p>[社告等の内容] 一部に内部部品の不具合があり、極めてまれに、使用中に発煙・発火に至る可能性がある。</p> <p>[対処方法] 無料点検・修理</p> <p>[問い合わせ先等] ・フリーダイヤル：0120-975-132 ・受付時間：月～金 9:30～12:00 13:30～16:00（土・日・祝日は除く） ・URL：http://www.bosch.co.jp/</p>